

企業組合 県木住



「無垢の家」を建てたかった

小堀様邸で完成見学会が開かれたのは2月(2023年)。雪がある外観は残し、内観の撮影を済ませた。その3ヶ月後の5月に取材に伺うと、玄関前に薪棚ができていた。室内にも、見学会のときにはなかった家具が置かれてあった。和室の座卓、リビングのソファ、キッチン片隅に置かれた合わせ鏡の鏡台……。やはり家具があれば生活実感が漂う。てっきり家に合わせて新しく購入したものと思ったら、「アパートにいたときの家具なんですよ」と笑う奥様。まるで将来建てる家を見越して揃えたかのように違和感なく納まっている。家具も、「終の居場所」を得たのだ。



ユーザー訪問

小堀 晃平・祥子 様邸

青森市桜川
2023年2月竣工

DATA

- 延べ床面積/35.9坪(118.95㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台、大黒柱)、スギ(一部外壁、床、柱、天井)、アカマツ(梁)など。

造作のさりげなさ

2月の完成見学会で小堀様邸の室内を撮影した写真のうち、玄関土間から、キッチンとダイニングを入れて写したリビングのカットが一番多かった。その写真でまず目に付くのが、キッチンの左端に立つ、2階の天井までの通しのヒバの大黒柱。山の立木のままの姿に野性味がある。それとは対照的に、あまり存在を主張しない、木を



リビングにヒバ丸太が立つ



ひときわ存在感を放つキッチン横のヒバの通しの大黒柱。吹き抜けから降り注ぐ陽光が木漏れ日のように明るく柔らかい

横格子のように張ったキッチンの右側の壁面。24mmのスギの小さな角材を同じ幅で張り、間の溝に24mm厚の板を差し込めば棚として使えるところが工夫である。凝り過ぎず、あつさりし過ぎず、空間に木の雰囲気があるのり漂い出るような造作。野趣ある大黒柱と、さりげない横格子との程好いコントラストが『映える』のだ。

「無垢の家」にしたかったと話すご主人。「木の家」を売りにしている工務店のうち3社の展示場を見学した。その中で、「室内に木が見える面積と漆喰の壁とのバランスがちょうど良く、すっと溶け込めるような雰囲気」が私たち夫婦には合いました。

それが県木住の展示場であった。

—— 県木住の展示場は何を見て知りましたか。

奥様の話 ネットで検索して知りました。場所は青森市石江で、地元工務店の6社がそれ



キッチン右の壁面に張られた横格子は、間の溝に板を差し込めば棚として使える造作

ぞれに建てた合同展示場（『アーバタウン石江』の二画に県木住の展示場があるのだからです（2022年売却）。主人は以前、同じ職場の人が県木住で建てた家を見学したことがあるそうですが、わたしは県木住の家を見るのは初めてで



施主の小堀様ご夫婦



リビング(手前)と和室の間のタタキに薪ストーブを設置



壁の柱は、リビングに立つ通しの大黒柱

す。電話で予約せずに飛び込みで見学に行ってみました。それが2021年6月です。県木住の人たちはいませんでしたけど、受付の方が案内してくれました。

展示場に入ってます目付いたのが、玄関土間の薪ストーブでした。実はわたし、薪ストーブがあんなに立派なものだとは思っていなかったんです。祖父が昔使っていた、今ならホームセンターとかで売っている安価なストーブのイメージがあっ

たので、薪ストーブにはあまり乗り気ではなかったんです。でも、現物を目にして考えが変わりました。

ご主人の話 県木住の展示場を見学する前に、ハウスメーカーの展示場も何社か見てはいたんですが、結論から言いますと、ピンときませんでした。案内してくれた社員の方が、「収納は広く取ってあります」「高断熱です」「床暖房です」などと熱心に説明してくれたんですけど、私にはあまり関心の

ないことでした。家の性能よりも、室内の空気感というか、住み心地が大事だと思っていたんです。床暖房しなくても無垢材の床板なら足に柔らかいし温かいし、それは同僚の家を見たときに感じていたことです。結局、私が求めていたのは「木」なんです。「木の家」って理屈抜きにほっとするものがありますよね。室内に木がちよっと見えるだけでね。

奥様の話 展示場で、「あ、いいなあ」と思ったのがキッチンでした。シンプルさが良かったんです。飾り気がなく、すっきりしていました。調理するのに必要最小限の機能があつて、ごちゃごちゃ飾り立っていない——そんな造りでした。今、主人が話したハウスメーカーの展示場では、どこも手前に引き下ろして使う吊戸棚が付いていて、「これが今主流」と説明していましたけれど、わたしが望んでいたのはそれとは真逆

で、吊戸棚なんてなくてもよく、食器が収納できる棚があるだけでいいシンプルなキッチンです。まさに県木住のキッチンがそれでした。造り付けの食器棚もくどくなく、あつさりしていて、しかも見える木肌が目に柔らかく、要望どおりです。収納が広かったり、多かたりすれば、それだけ物も溜まるので、初めから収納は必要分だけしか設けないこと、物を溜めないこと。県木住の展示場の造りは、キッチンにしてもリビングにしても、それから2階の開放的な間取りにしても必要以上に飾らない造りでした。飾らないからほっとするんですね。

ご主人の話 展示場を見学して、やる気モードになったと言いますか、どんな家にしたいか、妻とじっくり話し合うことにしました。妻も私も頼むのは県木住と内心決めたからでしょう。まず私の要望は、薪ストーブを付けたい。これは、展

示場のストープを見て妻の同意を得たので決定です。それと、大黒柱がほしい。角材じゃなく、丸太を立てた大黒柱。それに、伸び伸びした吹き抜け。屋根は、四角い無落雪じゃなく三角屋根。

奥様の話 わたしは、シンプルなキッチンと、作り付けの木の食器棚。室内もログハウスみたいにこごごどと木を張るのではなく、ちよつと木肌を見せるさりげない造り。飾り過ぎないこと。それとトイレとか洗面所とかの小窓のガラスは、単なる平面なガラスではなく、ふくよかな感じの北洋硝子の『津軽びいどろ』を使ってほしい。

ご主人の話 要望を出し合っているうちに、県木住の人に相談してみたい、話を聞いてみたいということになって、再び県木住を訪ねたのが3ヶ月後の9月です。対応してくれたのが佐藤さん(佐藤時彦代表)で、展示場と同じに「飾らない」人でした。

「青森の木なんだよ」

奥様の話 ほんとうはね、県木住は「敷居が高い」と思っていたんですよ。値段がね。でも、見積書が上がってきたら、希望する予算からは超えていたけど、頑張ればなんとかなる範囲内でした。手が届かないのなら仕方ありませんけど、内容を調整すればなんとかなる。よし頑張ろうってね。

ご主人の話 書斎とか特に私の部屋はありませんけど、「居場所」はあります。薪ストーブの前です。帰りが遅くなったときには薪ストーブの前で炎を眺めながら晩酌するんです。格別ですよ。

奥様の話 お気に入り場の場所はわたしにもあります。2階のホールです。窓越しに息子がよく遊ぶ公園が見えて、コーヒーを持って行って眺めるんですよ。くつろげるんですよ。春には公園の先に満開の桜

並木も見えますしね。

ご主人の話 小学2年の息子の居場所は、そこです(リビングと反対側の和室)。友だちを連れてきてワイワイ遊んでいませよ。

奥様の話 息子の友だちの、そのお姉ちゃんも遊びにきてね。玄関から入ってきた子供たちが「うわあ」って声をあげて、「いいなあ」って室内を見回すんです。すると息子がこう言うんです、「木で建てたんだよ。青森の木なんだよ」ってね。聞いているこつちまでなんだか嬉しくなってきたね。



階段手すりも壁の飾りも「さりげなく」。



企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
<http://www.kenmokuju.com> E-mail: info@kenmokuju.com



県木住事務所

企業組合 県木住

齋藤様邸で完成見学会が開かれたのは9月(2023年)のこと。約1ヶ月後、取材のため訪ねてみると、明るい茶褐色の塗装を施したスギ板張りの玄関先にカーポートが施工中だった。床のコンクリートがまだ乾いておらず、今日の取材は現場から近くにある奥様の実家の脇の「事務所」で行うことになっている。奥様の父親が営む左官業の会社事務所所だ。その父の父、祖父が初代で、奥様は祖父から、「家を建てるなら県木住がいい」と言われていたそう。木の家がいい」と。祖父の思いが伝わる孫の「家づくり物語」をご紹介します。



ユーザー訪問

齋藤 峻・麻貴 様邸

青森市大野山下
2023年10月竣工

DATA

- 延べ床面積/37.5坪(124.21㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(一部外壁、床、柱、天井)、アカマツ(梁)など。



建てるなら県木住

実家の前で出迎えてくれたご主人が、息子さんの手を引きながら、階段を2階へ上がっていく。事務所で、赤ん坊を抱っこした奥様が迎えてくれた。お子さんは2人で、息子さんは4歳、お嬢ちゃんは半年の可愛い盛りだ。

事務所というより住宅の客間のような和室の座卓に向かい合い、完成見学会のときに撮影した齋藤様邸の内観写真を

パソコンに映し出しながら取材を始めた。

「あ、これ、おじいちゃんの会社の看板だったんですよ」

そうやって奥様がパソコン画面の写真を指差したのは、玄関ホールの飾り棚であった。幅が約20cm。この板が、奥様の祖父の会社の看板だったという。

「これを、わが家のどっかに使ってほしいって(県木住に)頼んだら、飾り棚にしてくれたんです。社名が書いてある側は裏にしてね」

おじいちゃんが集めた“木”を生かす





床に張られたスギの木目と白い壁が美しく調和したひと続きのリビングとキッチン

残念ながら祖父は去年亡くなったそうだが、祖父の形見の看板が孫娘の新しい生活空間に飾り棚として生まれ変わったのだ。

その左官業の会社が、県木住の幸畑団地にあった住宅展示場や、現場をあちこち手掛けているとはいえ、仕事上繋がりが多くあるだろう工務店の中から、祖父が県木住を推薦した理由について、奥様がこう話す。「木を使っている、のがいいんだって言っていました。地元の木を一杯使って建てている、とおじいちゃん自身も木が好きで、ケヤキとかを集めていたんですよ。何枚も残っているケヤキの板も、わが家に生かしてほしいと相談したら、いつも目に付く場所に使ってくれました」

その一つが、リビングのコーナーに設けた畳スペース。「ここでは」と奥様がパソコン画面を指差したのは、壁を少しへこませて棚を設けたその上部に架けてある、化粧梁だ。樹齢何十

年ものケヤキの一枚板が太鼓張りのような味わい深い曲線を描いている。しゃれた床の間ふうに見えるのは設計のセンスだ。

「もう1ヶ所は、キッチンの前のカウンターで、その上部に梁のように架けて使ってくれまし



施主の齋藤様ご家族



祖父の会社の看板だった木を使って作られた玄関ホールの飾り棚(正面)



祖父が集めたケヤキの板で作られたキッチン前のカウンター



室内の暖房の暖かい空気が入るよう工夫された洗面所の上部の格子

「おじいちゃん」と奥様が話す、温もりある響きの心地よさ。大好きだった、おじいちゃん。よく働く人で、それこそ雨の日も風の日もとにかく休まずによく働く人であった——とおばあちゃんが話していたという、おじいちゃん。「おじいちゃんの子供が2人も男だったので、女の子の初孫

のわたしを溺愛してくれたんだそうです」と笑みが浮かぶ奥様。

——祖父が薦めた県木住以外に、「ご主人も奥様も、個人的に好みだった工務店はなかったのですか。

（ご主人は、活発に室内を動き回る息子さんに掛かりつきりなので、奥様が代表して）

奥様の話 わたしも主人も、とくにありませんでしたね（ご主人も頷く）。総合展示場とかも見に行きませんでしたし……。どこで建てるかじゃなくて、家中をこういう造りにしたいという要望がありましたよ。例えば、玄関の脇に雨で濡れた物も掛けておけるような広いシュー

ズクロークがほしいとか、動線がいいキッチンとか……。「県木住がいい」っておじいちゃんから薦められる前から、「木の家」がいいなどは思っていたんですよ。おじいちゃんが集めていた木に、子供の頃から触れていたからかもしれないね。親しみがあったんでしょう。

——県木住の展示場や現場はご覧になりましたか。

奥様の話 父が現場を案内してくれました。わたしが車を運転して、助手席から父が、ここもそう、あそこもそう、と指差してね。外壁に木を張った感じが良かったです。いかにも「木の家」っていう感じがしてね。

——家の内部を見学されたことは。

奥様の話 ありますよ。浪岡のお宅でした。気に入ったのが、洗面所のドアの上の格子です。洗面所に電気ストーブとかを置かなくても、室内の暖房の暖かい空気が格子から洗面所に入って中を暖めてくれるんだそ

うです。ぜひわが家にも、ってお願いしました。それと、県木住の事務所にお邪魔したときに、事務所の奥に見えた小上がり障子が気に入りました。横の棧が細かい昔ながらの和室の障子とは違って、太めの棧を数本組んだだけの、それでいて味わいがある、和モダンな雰囲気良かったです。わが家の、さつきお話ししましたリビングの畳スペースの壁にも、その棧の太い障子をはめ込んでもらいました。

ケヤキ板の化粧梁

——間取りを作るに当たって、ご主人が要望された部屋はありますか。



ご主人が体を鍛えるためのトレーニングルーム

(畳に寝転んで一人遊びをし始めた息子さんから解放されて、ご主人がテーブルの前に座った)

ご主人の話 体を鍛えるトレーニングルームです。ぶら下がり棒を置いて懸垂とかしてね。

——2階にあった、壁がコンクリートの打ちっ放しのような壁のあの部屋ですか？ 洗濯物を干す乾燥ルームだとばかり思っていました。

奥様の話 あの部屋、陽当たりがいいですからね、主人が出張で留守のときには、布団とかシーツとかを広げて乾すのに最適ですよ。

——奥様の「要望」は。

奥様の話 動線ですね。特にキッチン周りの動線にはこだわりました。お風呂、洗面所、キッチン、ダイニングテーブルまでを一直線にしたいと要望したら、さらに玄関ホールから、すぐ左手の洗面所を通じてキッチンにも行けるようになった動線

の良さがとてもいいです。もしそこがつながっていなければ、ダイニングルームのほうから回り込まなければなりませんからね。キッチンを中心にぐるりと回れる回遊動線ってほんとに楽ですよ。それと、(バソコン画面を指差して)階段の上り口に柱を立ててもらったのもわたしの要望でした。化粧柱って言うんですか、それを左右に3本ずつ。住宅の本を見ていたら、そういう造りをしていた階段があったんです。単に2階に上がる階段じゃなく、2階に招く「入り口」のような感じがあって、そこが気に入りました。



2階の洋室の床にも天井にも木が張られている

——カーポートが完成すれば、いよいよ引越すですね。

奥様の話 一生住む家だから、あまり急がずゆっくり建ててもらったんですけど、間近に迫ってくる期待が膨らみますね。家族は4人ですけど、「おじいちゃんの木」も同居します。

*

取材終了後、提案したご家族での記念撮影に快く応じていただいた。ソファに左から奥様、息子さん、お嬢ちゃん、ご主人。息子さんは元気がいっぱい、動きにカメラのシャッターが追いつけない。ご主人が笑って息子さんに、「はい、ちゃんと前向いて。ほらほら、ちゃんと……」。続けざまにシャッターを切った。そのうち、息子さんの顔がブレしていない写真は1枚だけだった。

息子さん、ねぶたが大好きだとか。おじいちゃんの会社の看板で作った棚の上に、額入りのねぶたの写真飾ってあげるそうだ。

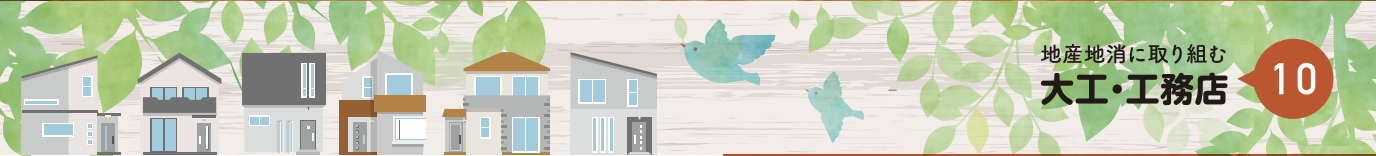


企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子福田60-2
TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
<http://www.kenmokuju.com> E-mail : info@kenmokuju.com



青森県産の無垢のスギの家



地産地消に取り組む
大工・工務店

10

企業組合 県木住

訪問

県木住造道展示場

青森市造道3丁目26-13 2023年7月15日オープン

■延べ床面積/33.42坪(110.72㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台、一部床)、スギ(一部外壁、床、柱、天井)、アカマツ(梁、机)。



アーバタウン造道

合同展示場

青森市造道に、地元工務店6社の展示場が建ち並び合同展示場『アーバタウン造道』がある。場所は、県道沿いの県民生協八重田店のすぐ裏手に隣接する分譲地。オープンしたのは2023年7月で、『アーバタウン石江』(2020年)に次ぐ第2弾だ。6社がそれぞれに特徴を打ち出した展示場を建て、合同展開することにより集客力を高めるのが狙い。2024年7月まで1年間展示して売却し、第3弾の展開へ繋げる。企業組合県木住の展示場の目印はガレージに置かれた「薪棚」。薪ストーブの炎が燃えるリビングの食卓テーブルに「家族が集う」暮らし、を提案している。



家族が集う、大きな食卓テーブルがどっしりと据えられている約18畳のリビング

家族が集う暮らし

「あ、かわいい」「かわいい〜」

玄関で女性の歓声があがった。見学に訪れた若い2人連れであった。玄関ドアを開けて、すぐ目に付くものといえば、玄関ホールの正面の壁にはめ込まれた「ガラス障子」。女性たちはそれを見て反応したのだ。

ガラス障子は縦棧が3本、横棧が1本だけのすつきりしたデザインで、交差する真ん中がダイヤのような菱形になっている。その菱形に使われている、揺らぐ水面のような厚みあるガラスは北洋硝子の『津軽びじろ』。ガラス越しにリビングの明

かりがにじむ様がレトロな雰囲気を感じて、それを女性たちの感覚で表現すると「かわいい」となるようだ。

リビングの入り口は引き戸。開けると、リビングだけでなく、ひと続きになったLDKの空間が一気に目の前に広がる。「ひろーい」と女性たち。入り口の正面に見える階段から、視線を左へ転じていくと――階段の左手に薪ストーブ、その隣に洗面・浴室の水回り、洗面室の手前の壁際にキッチン、その左に冷蔵庫、家事コーナーと並んでいる。

LDKの広さは合わせて約18畳。その中心に、家族が集

う“大きな食卓テーブル”がどっしりと据えられている。青森県産材のセンで製作したというテーブルは幅2m10cm、奥行1m、高さ68cm。テーブルの下部に設けられた引き出しには、小物だけでなくパソコンも収納できるの



三角に積み上げられた焚き付けの炎が*上から下へ、燃え移る



レトロな雰囲気を感じ出している玄関ホールガラス障子



が便利。この収納部分は移動できるようになっていて、脇に寄せればそこにも椅子を2脚置くことができ、来客に対応できるよう工夫されている。

室内を見渡して、気が付いたことがある。ソファがない。リビングにはたいがいソファがあつて、その前面の壁にはテレビが設置されているものだが、「あえてソファを外したのです」と展示場を設計した梶木住の女性建築士。その趣旨をこう話す。「ソファがあると、そこがテレビを観るだけの空間に占められがちです。その代わりに大きな

食卓テーブルを置いて、そこに家族が寄り集まる暮らしをイメージしました」

薪ストーブ脇の、洗面室上部の壁が開いているのは、薪ストーブの熱の取り入れ口だ。洗面室にも、また煙突が立ち上がる2階にも熱源を有効利用しようという省エネを配慮した工夫である。

2階に上がるうとして、あれ、と気が付いたのは、「手摺り」。木じゃなく、「ロープ」なのだ。太いロープの手摺り。採用した意図は？「たまたま見っていたカタログに載っていたんです。面白いなと思って」と設計者。「お客様の現場なら既製品の手摺りを付けるけど、展示場なので、試しに使ってみることにしたんです。当社で建てるお客様が、これを見て、気に入ってくれたら現場に使います」

子供が走れる広さ

2階は、間仕切りのない開放空間になっている。階段を上り

切った途端、子供たちが歓声をあげながら走り出しそうなほどに広い。この造りは『アーバタウん石江』の県木住展示場と同じ。子供が伸び伸びと過ごせる開放した空間づくりを、ここ造道展示場にも反映させたのだ。

「仕切りの壁を設けなくても、間にテーブルを置くだけで、向こうとこっちとに分けられた気分になります。それに子供部屋がなくても、リビングのテーブルで勉強はできます。家族と触れ合いながらのほうが、学んだものも身に付くような気がしますよ」とは、母親でもある設計者の体験談である。

2階で気が付いたのは、西側の窓の内側に障子が建てられていること。カーテンかブラインドを下げるのが一般的だが、そこに障子を建てたことによる効果は、西陽を受けた障子もたらず柔らかな明るさだろう。光を遮ってしまうのではなく、受けて和らげる。障子の良さを

改めて見直す思いがした。

「あら、すてき」と、2人連れの女性が入って行った部屋は、主寝室。北向きの藍色の障子は、青森藍で染めた障子紙なのだそう。西向きの窓は白い障子で、真ん中に菱形を組み込んだ作りは、玄関ホールのガラス障子と統一性を持たせているのだ。

隣に続いているのはウォークインクローゼット。女性たちは広い室内を見回したり、また主寝室に戻って藍色の障子に目を向けたりしながら、間接照明の心地よい雰囲気を感じるようにしばらく佇んでいた。

ストーブに火入れ

展示場の薪ストーブに初めて火が入ったのは、オープンしてから3ヶ月後の11月初めだった。薪ストーブ専門店の担当者が、取り扱いの注意点についてじっくり説明をした。

毎日ストーブを焚くようになる前に必ず行わなければならないのが「慣らし

焚き」。車の暖機運転と同じに、いきなり走り出すのではなく、準備運動をすること。ストーブ本体と煙突の材質に含まれる水分を、暖めて抜くことがまず最初なのだ。水分が含まれたまま焚いても燃えにくいのは薪も同じこと。どちらも、じっくり乾燥していることが大事で、「慣らし焚き」は1回じゃなく、1週間は続けて行うことが必要という。

「準備が整っていない炉の中で焚くと、不完全燃焼を引き起こします。そうなるまで薪がくすぶって、薪ストーブで一番クレームが多いオイルやケムリの問題につながるのです。隣近所と仲良く暮らすためにも慣らし焚きは欠かせ

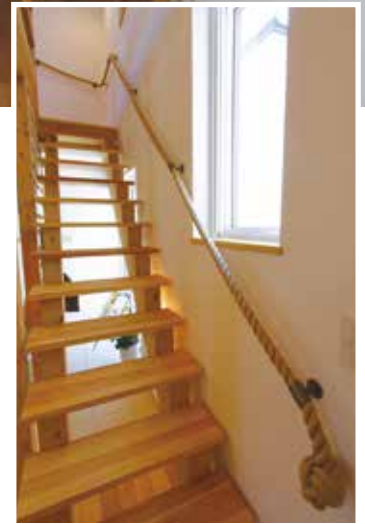


食卓テーブルに合わせてセンを張って仕上げたキッチン

ません」と担当者は強調する。最初に燃やす焚き付けは親指の太さ。次は手首、最後は二の腕くらいの太さ。火が燃え移りやすいようにだんだんに太くすること。焚き付けの次に、



子供が走れる広さの2階の間仕切りのない開放空間



2階への階段の手摺りはロープを採用

いきなり太い薪を入れても、せつかく暖まった炉の中の熱が薪に奪われてしまう。段階を踏むことが大事なのだ。

細い焚き付けの積み方は、トライアングルの“三角積み”が今はやりなのだとか。積んだら、次に着火剤を置く。その位置が、下ではなく、トライアングルの一番上だった。それで燃えるのか？ 見ててください、と担当者。着火すると、炎がだんだんと焚き付けの下へ燃え移っていった。初めて見る人は不思議なものを眺める思いがするだろう。

焚き付けの次に、手首ほどの薪をくべ、その次に二の腕大の薪をくべると、燃え盛った炎が炉内を舐め出した。この状態が

視覚的には一番「絵」になるが、実は炉内の温度が最も高くなるのは、炎が鎮まって、^{おき}燃になった状態なのだ。

「ここを見ていてください」と担当者が持っている温度計を指差す。ストーブのガラス扉を開け、温度計を熾に向けると、「測定不能」と表示された。測定限度の500℃を超えているので、測れないのだ。500℃を超える熾の熱が、室内を隅々まで暖めてくれるのである。炎が上がる炉内は、いかにも熱そう



柔らかな光が射し込む西側の窓には障子が建てられている

に見えるが、温度は熾の半分ほど。火ではなく、熾で暖まる。薪ストーブの原点が実感できた。

現在、建築業界に押し寄せている「波」は、太陽光発電設置の義務化。その次が、薪ストーブの設置と目されている。日本国内で自給できる貴重なエネルギー資源が「木」なのだ。暮らしに欠かせない存在として薪ストーブは戻りつつあるといえる。

創業以来20年以上にわたって地元の木を使い、薪ストーブを暮らしの中心に据えた家づくりを展開している佐藤時彦代表に、こだわりを伺った。
佐藤代表の話 便利な生活を



壁がなくても、間に机を置くだけで空間は仕切られた感覚になる



青森藍で染めた障子紙が貼られている主寝室の窓

追い求めた中で、薪ストーブが見直されるきっかけとなったのが東日本大震災(2011年)です。停電で周囲は真っ暗なのに、そこだけ窓に明かりが灯っていた家があった。薪ストーブを燃やしていたのです。電気がなくても灯油がなくても暖が取れるし、煮炊きもできて、しかも明るい。気づかずにきた薪ストーブの良さが震災で再認識されたわけです。山に行けば木ならいくらでもある。身近にある木で家を建て、木を燃やして暖房する。木を燃やすと二酸化炭素が排出されますが、その二酸化炭素を森にある木々が吸収し、育った地域の資源を暮

らしに生かす。そういうカーボン・オフセットの生活スタイルを、薪ストーブを中心にした家づくりを通してさらに広げていきたいものです」

薪ストーブがあるリビングの食卓テーブルに家族が集う暮らし。「ぜひ展示場を見学して、家づくりにお役立てください」と佐藤代表。2024年7月まで見学会開催中(定休日は毎週水曜日)。展示場購入相談受付中。

.....
■「アーバタウン」の「アーバ」(AHBA)とは、「Aomori Home Builders(工務店 Architects(建築士)」の頭文字を取ったもの。

第2弾 始動!!

アーバタウン造道

薪ストーブのある木の家 県木住展示場



青森の木で家をつくる 企業組合
県木住
企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
TEL.0172-55-7793
FAX.0172-55-7559
<http://www.kenmokujiyu.com>
E-mail: info@kenmokujiyu.com



6社合同展示場

県木住リフォームも大忙し

佐藤時彦代表の現場日記



窓リノベ 内窓取り付け

T様邸(青森市 2023・8)

国の今年度の大きな目玉補助事業通称「窓リノベ」。住宅の省エネ化を推進するため窓を高性能なサッシに替えようという事業。青森市のT様宅もこの事業の補助金を活用し、主要な窓のすべてに内窓を設置した。



増改築

E様邸(東北町 2022・5)

従来の窓もペアガラス(複層ガラス)で、その内側にペアガラスサッシを付けたのでガラスは合計4枚に。断熱性が格段にアップした。



増改築

S様邸(青森市 2022・8)

アパート住まいであった息子さん夫婦と一緒に暮らす家に改築した。2階にキッチン、ダイニング、寝室、クローゼットルームを作った。同居により1階には車置き場2台分。建蔽率ギリギリ内に納まった。住みな

既存の建物に、屋根は一体になるように増築部分を接続した。屋根の端の壁の解体作業から着手。
増築部分は成長したお孫さんたちの子供部屋に。併せて、キッチン周辺、トイレ、洗面脱衣室、浴室も改築。みちのく有料道路の回数券を購入して現場に通った。

からの工事”だったが、S様のご協力を得て無事完成。変身したブラックの外壁がまるで新築のよう。

農機具倉庫新築

T様邸(弘前市 2023・6)



T様ご家族と共に作り上げた手作り倉庫。雑穀を処理する機械を置くエリアと、材料を吊るして乾かすエリアの合計

6畳。外壁はスギの下見板張りで、T様の施工。西側の乾燥エリアはF I X網戸付。1人でこもる。部屋としても使えそう。

改築

T様邸(弘前市 2023.3)

リビング、ダイニングの床はスギ。壁ははたて漆喰壁と、高さ1m80cmにスギの羽目板。天井には和紙を貼った。ダイニングテーブルはスギJパネル製の澤田棟梁の手作り。澤田棟梁は



こういう細工物が得意。システムキッチン吊り戸収納の下に、奥行の少ない吊り収納を設けた。日常使う食器類はこの棚に収納する。

薪棚づくり

DIY with 県木住

K様邸(青森市浪岡 2023.8)



厳しい暑さの真夏日、DIY薪棚づくり開始。加工した木材を現地で組み立てた。K様ご夫妻も参加。軒のしっかり出た雨、雪に強い薪棚が完成。

リノベーション現地調査

A様邸(弘前市 2023.6)

築50年というA様邸のリノベーションに向けた現地調査。間取り図を基に壁の位置、柱の位置、窓の位置などを確認。私(佐藤代表)と建築士がそれぞれ図面を作成し、照らし合わせる。間違いなし。次は床下にもぐって基礎内部の調査。



新築後何年かして、土台上げし、基礎を作り直した経緯がありそう。50年前に職人が建て

た建物を現在の知識と技術で対応して生かすところに地元工務店の真価がある。

テーブル製作

(2023.9)



塗装屋さんから、「小さくていいので、あずましいテーブルを作ってほしい」と頼まれた。スギJパネル(幅1m82cm、奥行91cm、厚さ3cm)1枚を使って大工が製作。テーブルの天板サイズは90cm×90cm。注文主は塗装屋さんなので塗装仕上げはおまかせ。



県木住 リフォーム問い合わせ
TEL017215517793